

簡易版BCPシート（地震）

1.基本方針

大地震発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

- 1 人命を最優先として、職員と利用者の安全と生活を守る
- 2 事業を継続し、利用者への影響を最小限に留める
- 3 地域社会の安全と復興に貢献する

2.対応責任者

統括責任者

松岡 夏樹

ⓘ 平時はBCP推進、緊急時は災害対応全般に関する意思決定を行い、施設全体の活動を統括する。

初動対応担当

松岡 夏樹（代行者：内藤 洋子）

ⓘ 平時は初動に関する手順やマニュアルの策定・見直しや初動対応の教育訓練を主導し、緊急時は安否確認等、組織機能の維持に関する指揮をとる。

事業継続担当

松岡 夏樹（代行者：松岡 若奈）

ⓘ 平時は事業継続計画（BCP）の策定・見直しやBCPの教育訓練を主導し、緊急時は重要業務の継続に関する指揮をとる。

重要業務

利用者の安全・生活を守るサービスの提供

3.被害想定

[J-SHIS 地震ハザードステーション](#)、[重ねるハザードマップ](#)などで確認し、ご自身で入力してください。

最新の情報を確認し、万が一の避難等について検討しておきましょう。

想定地震	震度6強	社会インフラの中断（電力・通信3日間、上水道・ガス2週間） 自社の被害（壁などにひび割れ・亀裂がみられる）
-------------	------	--

※旧耐震基準の建物は早急に耐震化を進めましょう。新耐震基準の建物でも崩れても使えなくなることを想定しましょう。

想定津波 浸水深	0.5~3m	自施設の被害（床上浸水し、1階が使用できなくなる～2m以上で木造家屋は流出） 人的な被害（1m以上の津波に巻き込まれるとほとんどの人が死亡）
---------------------	--------	---

※建物の構造等により、実際の被害は異なる可能性があります。

4.対応手順 (以下の手順で対応を実施します。)

(1) 大地震発生直後 (目安: 直後から可能な限り速やかに)

①対策本部設置

基準	震度6弱以上の地震が発生した場合、または対策本部長が必要と判断した場合
設置場所	代替場所: 真砂町長谷川ビル4 F
参集メンバー	統括責任者、初動対応担当

②避難

施設内

基準	浸水が想定される
避難場所	真砂町長谷川ビル4 F

施設外

基準	火災が発生した場合、または震度6強以上の地震が発生した場合 (棚が倒れる、木造の建物が倒れる恐れがある)
避難場所	マイステイズ清水

③救助・負傷者対応

救助・応急処置道具の所在	事務所
救急搬送先①	桜ヶ丘病院 (電話番号: 054-353-5311)
救急搬送先②	静岡市立清水病院 (電話番号: 054-336-1111)

④安否確認

職員

基準	当施設所在地における震度5強以上の地震（棚が倒れたりブロック塀が崩れる可能性がある）
対象者	役員・職員
集計担当部	松岡 夏樹
確認方法①	SNS（ラインなど）の一斉発信を行う
確認方法②	社内連絡網（電話）を利用する
確認方法③	災害用伝言ダイヤル（171）を利用する

利用者

基準	当施設所在地における震度5強以上の地震（棚が倒れたりブロック塀が崩れる可能性がある）
対象者	発災当日の利用者
集計担当部	松岡 夏樹
確認方法①	施設内にいる利用者の状況を確認する
確認方法②	

※利用者家族へ利用者の安否を連絡する

※夜間・休日に災害が発生した場合の対応

参集メンバーは自身が安全に移動できることが確認でき次第（火災が発生していない、夜間でない 等）、定められた場所に参集

参集メンバー	統括責任者、全職員（パート・アルバイト含む）
参集場所	代替場所：真砂町長谷川ビル4F

(2) 初動対応フェーズ (目安：直後～24時間以内)

① 状況確認

統括責任者

初動対応担当

確認対象	担当者 (部門)
役員・職員等 (安否・負傷者状況)	松岡 夏樹
建物・設備 (損傷状況)	松岡 夏樹
電気・水道・ガス (使用可否)	松岡 夏樹
利用者等 (安否・負傷者状況、引き渡し状況)	内藤 洋子
取引先 (仕入れ先等の状況)	松岡 夏樹
情報システム (使用可否)	松岡 夏樹
資金 (現預金・買掛金等)	松岡 夏樹

② 備蓄品の状況

職員用に準備

品名	数量
飲料水	30 リットル
食料	40 食
ヘルメット	7 個
毛布	7 枚

利用者用に準備

品名	数量	品名	数量
飲料水	70 リットル	おむつ・尿取りパッド	枚分
普通食	100 食	おしりふき	回分
特別食	食	口腔ケア用品	50 回分
トロミ剤	食	毛布	24 枚
経管栄養剤	食	ゴミ袋	50 個
ヘルメット	24 個	タオル	10 個

施設として準備

品名	数量	品名	数量
救急箱	1 箱	携帯電話	2 個
担架	台	懐中電灯	2 個
簡易トイレ	100 回分	救出用工具（バール等）	1 セット
トイレットペーパー	40 個	自転車（ノーパンク）	台
カセットコンロ	5 台	非常用発電機	1 基
携帯ラジオ	2 台		

(3) 事業継続フェーズ

統括責任者に都度状況の報告を行います。

① 状況確認

対応戦略	被災拠点を早期復旧する方針（復旧戦略）：被災した施設自体を早期に復旧することにより、サービスを継続・再開する
ボトルネック	施設の建物が使用できない、ユーティリティ（電力、水、ガスなど）が使用できない、資材・食材等が不足している、通信・情報システムが使用できない

②資金調達

必要な資金（発災後3カ月の想定）

概要		金額
(A) 経営維持費用	従業員への給与の支払い	3,500 千円
	買掛金の支払い	2,500 千円
	金融機関からの借入金の返済	150 千円
	その他	0 千円
(B) 災害復旧費	被災建物・設備の復旧	8,500 千円
	その他	千円
必要な資金の合計		14,650 千円

調達可能な資金（発災後3カ月の想定）

概要		金額
(C) 利用可能な手元資金（現在の現預金）		15,000 千円
(D) 回収可能な売掛金		1,000 千円
(E) 公的機関の特例貸付		千円
(F) 地震保険		千円
(G) 休業保険・利益保険		千円
(H) その他		0 千円
調達可能な資金の合計		16,000 千円

※介護報酬に関する通達等が出される場合がありますので、最新の情報を入手しましょう。

5.業務継続対応

	発災	発災後6時間	発災後24時間	発災後3日	発災後1週間	
出勤率	90%	80%	60%	70%	90%	
インフラ停止	電気・水道・ガス	電気・水道・ガス	電気・水道・ガス	電気・水道・ガス	復旧	
介護業務	食事	-	備蓄食料を提供。	備蓄食料を提供。可能なら温めて提供。	備蓄食料を提供。可能なら温めて提供。	通常のサービスを再開。
	水分補給	-	備蓄飲料を提供。	備蓄飲料を提供。	備蓄飲料を提供。	通常のサービスを再開。
	排泄	簡易トイレ配布。	簡易トイレ交換。	簡易トイレ交換。	人員の余裕があれば徐々に通常の体制へ移行。	通常のサービスを再開。
	与薬	投薬中止の影響を踏まえ、優先順位をつけ対応。	投薬中止の影響を踏まえ、優先順位をつけ対応。	投薬中止の影響を踏まえ、優先順位をつけ対応。	人員の余裕があれば徐々に通常の体制へ移行。	通常のサービスを再開。
	口腔ケア		備蓄ハブラシを提供。	備蓄ハブラシを提供。	備蓄ハブラシを提供。	通常のサービスを再開。
	健康管理	-	最低限の体調確認を実施。	最低限の体調確認を実施。	人員の余裕があれば徐々に通常の体制へ移行。	通常のサービスを再開。
	更衣・清掃・洗濯	-	-	汚れた場合のみ実施。清掃は消毒中心に実施。	汚れた場合のみ実施。清掃は消毒中心に実施。	通常のサービスを再開。

	発災	発災後6時間	発災後24時間	発災後3日	発災後1週間
出勤率	90%	80%	60%	70%	90%
インフラ停止	電気・水道・ガス	電気・水道・ガス	電気・水道・ガス	電気・水道・ガス	復旧
事務業務	支払い業務	-	-	-	人員の余裕があり、締日が近い場合、可能な範囲で再開。
	労務管理	-	職員の被災状況を踏まえ、緊急シフトを組む。	職員の被災状況を踏まえ、緊急シフトを組む。	シフト組み・過重労働対策・メンタルケアを実施。
	利用者引き渡し調整	利用者家族へ連絡し、引き渡しを調整。	利用者家族へ連絡し、引き渡しを調整。	利用者家族へ連絡し、引き渡しを調整。	家族への引き渡しを完了。独居の場合は福祉避難所へ案内する。